別紙様式

令和7年度　学校評価報告書

小樽市立忍路中央小学校
校長　本庄　有希子

【評価】 数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価することを基本とする。
A：100％以上　／　B：80％以上100％未満　／　C：80％未満

※ 評価する際には、学校関係者と密接な連携をとり、単に数値の達成率を見るだけでなく、目標達成に向けたプロセスや、児童生徒の成長の度合い、具体的な取組の内容などを総合的に評価すること。

1　本年度の重点目標

子どもたち一人一人の可能性を引き出す
様々なニーズを有する児童を誰一人取り残さない多様な学びの機会を確保する。
児童のそれぞれの良さや持ち味を生かし、みんなが活躍できる機会や出番がある授業づくりを行う。1人1台端末を活用した児童一人一人の学習進度や興味・関心に応じた指導など、児童の特性に合った柔軟な学びを実現する。

2　自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
1	未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均以上とし、2学期末ほっかいどうチャレンジテストの正答率について前年度を上回る。誤答に取り組む児童を100％とする。	B	1人1台端末を活用した週内課題や家庭学習への取組を全校ですすめてきた。また、過去の全国学力・学習状況調査問題に取り組み、その分析から学力向上検討委員会を中心に小中連携した授業改善をすすめてきた。平均正答率では算数は全国平均を上回ることができたが、国語や理科は下回った。誤答に取り組む児童は100％であった。2学期末ほっかいどうチャレンジテストの正答率は67％であり、前年度比73％を上回ることができなかった。	◎
		特別支援教育の充実	「個別の教育的ニーズに応じた指導の充実に努めている。」に肯定的回答をする教員の割合を100％とする。	A	特別支援教育コーディネーターを中心とし、個別の教育支援計画や教育指導計画に基づいた教育活動をすすめてきた。また、定期的に個別支援対策委員会を実施し、支援体制の改善、充実に努めた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100％であり、個別の教育的ニーズに応じた指導の充実に係る取組について目標値を達成できた。	◎
		国際理解教育の充実	「学校はALTを活用した外国語など、新しい時代に対応した教育活動をすすめている。」に肯定的回答をする保護者の割合を100％とする。	A	外国語活動、外国語の授業時間に限らず、ALTと児童が交流できるよう、登校時の児童の出迎えや学校行事などへの参加を積極的にはたらきかけてきた。後期保護者学校評価では100％の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
		理数教育の充実	全国学力・学習状況調査の質問調査等で「算数・数学の勉強が好き。」と肯定的に回答した児童の割合を80％以上にし、児童学校評価「算数や理科が好き。」の回答を90％以上とする。	C	中学校教員による乗り入れ授業を実施し、専門性を活かした授業を行ってきた。また、中学校教員へ市内小学校への公開研究会や研修への積極的な参加をはたらきかけてきた。全国学力・学習状況調査では「算数の勉強が好き」と回答した割合は33.3％、後期児童学校評価で「算数や理科が好き」と回答した割合は82％であり、目標を達成することができなかった。	◎
		情報教育の充実	ほっかいどうチャレンジテスト等、MEXCBTを活用した問題やデジタルドリルでの配信を年間24回以上実施する。	A	小中で一貫した発達段階に応じた活用目標を設定し、ICTを活用した授業作りをすすめてきた。ほっかいどうチャレンジテストや1人1台端末を活用した週内課題において、計画的に問題配信を24回以上実施することができた。	◎
		キャリア教育の充実	「学校は地域の特色を生かした教育活動をすすめている。」に肯定的回答をする保護者の割合を100％とする。児童学校評価「忍路や蘭島を将来もっとよくするために取り組みたい。」について肯定的回答を90％以上とする。	B	地域人材や学校運営協議会委員の協力により、地域の特色やよさを生かした探究的な学習をすすめてきた。また、担当教員と講師が積極的に連携し、より主体的な学習になるよう内容の見直しや授業改善に努めた。前期及び後期保護者学校評価、前期児童学校評価では100％の肯定的評価であり、目標値を達成できたが、後期児童学校評価では50％であった。	◎
改善方策		・全国学力・学習状況調査をはじめ、各種結果の分析から、小中連携した授業改善を積極的に推進していく。また、互いが助け合い、安心して学べる環境の整備、互いの意見を尊重し合い、自分の考えを深め、新たな考えに気づくことができる授業を構築していくとともに、一人一台端末の有効な活用を行っていく。 ・年間を通したキャリア教育の充実に向けて、指導計画の見直し、各教科の学習と将来の生き方とのつながりを意識した授業改善をすすめていく。				
学校関係者評価委員による意見		・「算数や理科が好き」と肯定的に回答する児童が少ない現状は、従来からの課題であると同時に、教員の能力と資質も問われてくると思う。もう少し数値目標を下げ、教師自身のモチベーションの維持と向上につなげ、これからも頑張ってほしいと思う。また、児童の「こんな学習をしたい。」という思いや意見をもっと授業に反映することができたらよい。 ・小さな集団の中で、子どもたち一人一人が大切にされていると感じました。地域人材を活用した教育活動が多のは、とてもよいことだと思う。				

2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	「学校は、あらゆる機会を通じて規範意識の醸成に努めている。」に肯定的回答をする保護者の割合を90%とする。	B	特別の教科道徳の授業公開や外部講師を活用した人権教室を実施するなど、子どもの規範意識育成に努めてきたが、後期保護者学校評価では75%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
		ふるさと教育の充実	「学校は、地域の特色を生かした教育活動の推進に努めている。」に「十分」と回答する保護者の割合を100%とする。	A	外部講師との連携を密に行い、より主体的で探究的な学びとなるよう教育課程を編成・実施してきた。また、その様子について学校だよりやホームページ、インスタグラムなどを通じ保護者や地域へ広く周知してきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
		読書活動の推進	「学校は、児童に読書への興味を持たせる読書活動の充実に努めている。」に肯定的回答をした保護者の割合を100%とする。	B	学校司書や市立図書館と連携し、児童が興味・関心がある本を購入し、中学校3年生による本のポップづくりの授業を実施、わくわくブック号を活用した本の貸し出しなど読書活動や環境の充実に努めてきた。また、読書活動の推進について保護者への周知をしてきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できたが、後期児童学校評価「家でどれくらい本を読むか」において「ほとんど読まない」と回答した児童が88%であった	◎
		体験活動の推進	「学校は地域の人材や施設を活用した体験活動をすすめている。」の肯定的回答をする教員の割合を100%とする。	A	総合的な学習において、地域人材による「海の学習」「フットパス」「蘭島川の生き物学習」などを通して体験活動や地域学習の充実に努めてきた。また、学習の様子を学校だよりやホームページ、インスタグラムなどを通じ保護者や地域へ広く周知してきた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100%であり、地域を理解する体験活動を推進することができた。	◎
		コミュニケーション能力の育成	全国学力・学習状況調査「話し合う活動」について、肯定的回答をする児童の割合を80%以上、児童学校評価100%を達成する。	A	全ての教科での振り返りなど「自分の考え」を表現する場面を設定し、他者と協働的に学び合うことができる教育活動をすすめてきた。また、学力向上検討委員会を定期的に開催し、プレゼンテーションソフトを使った構造的な授業の構築、授業改善に努めてきた。「話し合う活動」について、全国学力・学習状況調査及び後期児童学校評価において100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「学校は、いじめや不登校の未然防止のためにアセスメントなとに取り組んでいる。」に「十分」「おおむね十分」と回答する保護者の割合を100%とする。	B	年2回のアセスメント実施し、個別支援対策委員会において支援体制の改善、充実に努めた。また、全職員で全児童を見守る温かい学校風土を大切にし、児童のウェルビーイング向上に向けた取組をすすめてきた。しかし、後期保護者学校評価では71%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
改善方策		・読書の楽しさや有用感を感じることができるようわくわくブック号の有効活用、学校司書や図書係と連携した児童の興味関心のある本の計画的な購入、中学生による読み聞かせや本のポップづくりの授業の実施など、本に触れ合う機会を多く設定していく。 ・登校時の出迎え、児童への声かけなど全職員で全児童を見守る温かい学校風土の継続、欠席児童への個別対応や教育相談など児童のウェルビーイング向上に向けた取組をすすめる。				
学校関係者評価委員による意見		・「豊かな心の育成」の実現のために、道徳、ふるさと教育、読書、体験活動がなされていることは素晴らしいと思う。地域の特性を生かし、今後も継続して取り組んでほしい。また、その取組を地域だけではなく、市内全域に知らせてほしい。 ・SNSが身近な社会で、特に「コミュニケーション能力の育成」は大切だと思うので学校、家庭、地域が連携して進めてほしい。今後も、学校行事への参加について、地域団体への案内を大切にしてほしい。				

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">小樽市教育推進計画の目標</th><th rowspan="2">施策項目</th><th rowspan="2">数値目標</th><th colspan="2">自己評価</th><th rowspan="2">学校関係者評価</th></tr>
<tr><th>評価</th><th>取組状況・達成状況</th></tr>
<tr><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3">健やかな体の育成</td><td>体力・運動能力の向上</td><td>「学校は、体力向上のために縄跳びなど運動能力の向上に努めている。」に「十分」と回答する保護者の割合を100%とする。</td><td>A</td><td>鉄棒週間やのぼり棒週間、縄跳び集会を活用した「どさん子元気アップチャレンジ」への参加、ジャンプゾーンの設置など体育の授業以外で子どもが運動する機会を意図的に設定し体力向上の取組を実施してきた。また、高学年において中学教員による乗り入れ授業を実施し、専門性を活かした授業を行ってきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>食育の推進</td><td>全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査において「朝食を毎日食べている。」と回答する割合90%以上とし、外部講師を招いての食育授業を実施する。</td><td>A</td><td>外部講師や栄養教諭による食育講座を実施し、栄養の大切さや健やかな成長と規則正しい食生活について、体験的に学習する機会を設定した。全国学力・学習状況調査において「朝食を毎日食べている」では66．6%と目標値に達成することができなかったが、後期児童学校評価では100%の肯定的回答であり、改善がみられた。</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>健康教育の充実</td><td>「学校は、家庭と連携し、望ましい生活習慣づくりに取り組んでいる」に「十分」「おおむね十分である」と回答する保護者の割合を100%とし、健康に関する外部講師を招いた健康に関する講座を実施する。</td><td>B</td><td>夏季休業や冬季休業開けに生活リズムチェックシートを活用した取組を家庭と連携して実施するとともに保護者会などを通じて健康教育実施の状況について周知した。また、健康に関する外部講師を招いた授業を計画的に実施してきた。しかし、後期保護者学校評価では80%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。</td><td>◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">改善方策</td><td colspan="5">・体力向上や健康教育の充実に係り、運動週間、生活リズムチェックシート、食育や健康に関する外部講師を招いた授業を計画的に実施していく。</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校関係者評価委員による意見</td><td colspan="5">・「健やかな体の育成」に関しては、家庭との連携が必要なので、保護者への密なる働きかけや工夫ができるようにしてほしい。
・今後も、楽しいと実感することができる体力の向上、食育、健康教育を取り入れてほしい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">家庭・地域との連携・協働の推進</td><td>家庭教育支援の充実</td><td>生活リズムチェックシートを年複数回実施し、家庭学習の習慣化を図り、生活リズムチェック週間で家庭学習をしない児童0人とする。</td><td>A</td><td>夏季休業、冬季休業明けに「生活リズムチェックシート」実施期間を設定し、保護者と連携した生活習慣の改善に努めてきた。また、家庭学習計画表や1人1台端末を活用した週内課題を実施、その実施状況を分析し、改善に取り組むことで家庭学習習慣の確立に努めてきた。生活リズムチェック週間、及び後期児童学校評価において家庭学習をしない児童は0人であった。</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>学校と地域の連携・協働の推進</td><td>「学校は地域の人材や施設を活用した体験活動をすすめている」の肯定的回答をする教員の割合を100%とする。</td><td>A</td><td>「フットパス」や「蘭島川の生き物学習」、「ウニの学習」など、地域を理解する教育活動をすすめてきた。また、その様子を学校だよりやホームページ、インスタグラムなどを通じ保護者や地域へ広く周知をしてきた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100%であり、目標値を達成できた。</td><td>◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">改善方策</td><td colspan="5">・家庭や地域との連携を見直し、学校運営協議会委員と協力する教育活動を推進するとともに、ホームページやインスタグラムなどを活用した広報活動に取り組む。
・児童の取組実態、各種アンケートの分析結果から児童の家庭学習状況を把握し、家庭学習の取り組み方や内容について、工夫・改善に努めるとともに家庭と連携して生活習慣の改善、家庭学習習慣の定着を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校関係者評価委員による意見</td><td colspan="5">・これからも家庭や地域との連携を大切にしながら、教育活動をすすめてほしい。
・町内会の回覧板にある学校から発行される「学校だより」は、学校の様子を知ることができてとてもよいことと思っている。今後も、地域への配布を継続してほしい。</td></tr>
</table>

5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中共通のグランドデザインを作成し、小中併置に係る保護者アンケートの肯定的回答を100%とするとともに、保育所との連携をすすめる。	A	今年度の重点目標を共有し、小中合同の行事や中学校教員による専科授業の実施など小中連携した教育活動を計画的にすすめてきた。保育所にも学校行事やふるさと教育への参加を呼びかけてきた。その様子を学校だよりやHP、保護者会などを通じて実施の状況を周知してきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境の点検を年4回実施する。	A	年4回に限らず、日々の巡視や授業参観において教室の教育環境を点検し、子どもにとって学びやすい環境作り、ユニバーサルデザインを意識した環境整備にに努めた。	◎
		教職員の資質・能力の向上	年2回職場でのコンプライアンス研修を実施し、教員一人、3回以上の研修会、研究会への参加と体罰に関する調査で「体罰0」を継続する。	A	日々の研修や全体での打ち合わせにおいて、コンプライアンスに関する資料の提示や回覧を積極的に行ったり、各種研修への参加を呼びかけたりした。校内研修や小樽市教育研究会への参加も含めて全教職員が3回以上の研修会に参加し、資質・能力の向上に努めることができた。また、体罰などに関する調査において「教員による体罰0」を継続することができた。	◎
		学校運営の改善	超過勤務時間が月45時間以下の教員の割合を90%以上とする。	A	校務分掌の見直し、小中連携した分掌業務体制を確立してきた。また、クラウドを活用した職員会議のスリム化、連絡体制の工夫改善など学校DXによる校務改善、働きやすい環境の整備に努めてきた。12月末までの超過勤務時間が月45時間以下の教員の割合は90%であり、目標値を達成できた。	◎
		学校安全教育の充実	「学校は、警察・消防等との連携など安全教育の充実に取り組んでいる。」に「十分」「おおむね十分」と回答する保護者の割合を100%とする。	A	小中合同の交通安全教室や年3回の避難訓練の実施、学校運営協議会委員と連携した防災講話や交通安全街頭指導を実施し、保護者へ学校の安全教育について周知を図ってきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
改善方策		・小中合同で行うことができる行事や教育活動を精選し、工夫改善を図ることで、学校教育目標の具現化に取り組む。 ・学校運営協議会委員や地域と連携し、学校安全教育及び防災教育の充実に向けた取組を実施する。				
学校関係者評価委員による意見		・素晴らしい取組がなされていると思う。これからも、工夫改善をしながら、魅力ある教育活動を継続してほしいと思う。 ・子どもたちの教育をサポートしていくためにも、保育園と小学校も連携してけたらよいと思う。				

社会教育に関連する目標（目標6～8）		本への興味・関心を喚起するため、市立図書館と連携する。わくわくブック号を有効的に活用し、一人本を2冊以上借りる。	B	市立図書館と連携してわくわくブック号による本の貸し出しを2回実施し、全児童が本を2冊以上借りることができた。また、司書教諭と連携し、絵本の読み聞かせや児童が興味のある本を購入し、中学校3年生による本のポップ作りの授業を行うなど本への興味・関心を高めるてきた。しかし、後期児童学校評価「家でどれくらい本を読むか」において「ほとんど読まない」と回答した児童が88%であった。	◎
改善方策	・学校評価の分析結果を共有し、読書環境の整備、工夫改善により読書習慣の確立に努める。 ・学校司書や市立図書館と連携した取組をすすめ、読書活動の推進について保護者への周知を図る。				
学校関係者評価委員による意見	・読書については、お薦めの本を各家庭に定期的に回覧したり、子ども同士による読み聞かせを行ったりするなど、読書の楽しさを実感できる取組を工夫し、実施してほしい。 ・子どものゲームや動画の視聴、SNSの利用などについて、保護者と話し合い、改めて読書の大切さについて確認し、連携しながらすすめてほしい。				